心理学実験III

科目コード●050507
担当教員●木村　進・宇田川一夫
佐々木千鶴子・渡部　純夫

2単位 | SR | 3年以上

福祉心理
平成17年度入学者
選択A

※この科目は，平成17年10月以前の入学者のみ履修登録ができます。また，この科目のスクーリングは平成20年度までのみ開講します。

科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり，どのような条件の下でどのような行動が生じるか，あるいは，ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが，実験法もその一つです。

科学的知識とは，客観的事実として実証されたものをいいますが，心理学では，特定の要因(独立変数とよぶ）を系統的に変化させ，意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり，これを実験法とよんでいます。条件を厳密に統制するというところに実験法の特徴がありますが，心理学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは，さまざまな角度から，この実験法について，その基礎を学ぶことを目標とします。

教科書

テキスト（プリント）は，スクーリング時に配布します。実験一般については，『福祉心理学科スタディ・ガイド』も参考にしてください。

授業の進め方

心理学実験Ⅲでは，下記の４つの実験を体験します。受講生は１日１種目ずつ，①実験についてのオリエンテーション，②実験を行う，③データの整理・分析，④レポートの作成という一連の作業を行います。翌日は別の種目を経験し，４回ローテーションして全種目を終わることになります。

＊実験１「要求水準」（木村　進　担当）

私たちが何か課題（例えばテスト）に遭遇する場合，結果についての予測（○点くらいとれるだろう）や期待（○点くらいとりたい）をもつのが普通です。この予想や期待の高さを「要求水準」とよびます。この要求水準の高さは，個人によって，課題によって，あるいは場面によって変化すると考えられますが，実験では，同じ課題をするなかで要求水

準の立て方が個人によって，あるいは課題によってどのように異なるかを明らかにします。

＊実験２「投影法の基礎」（宇田川一夫　担当）

私たちの視覚は，通常外界を正確に見ていると理解しています。しかしそれと同時にたまに「目の錯覚」をも経験しています。

本実験は，外界からの刺激を知覚がどうとらえるかだけではなく，外界からの刺激を内界がどのようにとらえ，そして外界をどのように知覚するかを実験的手法を使い検討します。

「桜」を見たとき，そのときの心理状態で同じ桜でもいろいろに映るはずです。この心理過程を心理学では，「投影」といいます。たとえば，入学試験に不合格で気分が落ち込んでいたとしたら，散っていく桜に「哀れさ」を感じるでしょう。一方，恋人と見ている人には，桜は「美しい」と感じられるでしょう。このように同じ外界でも見る人の心理状態によって外界がいろいろに映る心理現象について検討します。

＊実験３「コラージュ法」（佐々木千鶴子　担当）

コラージュ法は，一枚の紙に雑誌や写真，新聞紙などの素材を切り貼りし，ひとつのイメージを作り上げることを意味するアートの一分野ですが，現在では心理援助技法のひとつとして用いられています。本実験では条件の異なる２つのコラージュを体験し，そのプロセスや作品の違いをSD法と自分自身の行動観察により検討します。

＊実験４「家族のイメージ」（渡部　純夫　担当）

イメージにはさまざまなレベルがあり，またさまざまな側面があります。実際に目をつぶってイメージしてみると，断片的にいろいろなことがらが浮かんできます。そこには対象の持つ物理的特徴や形態のみならず，対象の表象や対象との関係性も内包されています。本実験では家族に対するイメージをとりあげ，そこに現れる家族イメージの特徴について検討します。

評価の方法

評価は，①それぞれの実験において指示された内容についてのレポートと，②スクーリング終了時に提出してもらう単位認定レポートの２つに基づいて行います。①に関しては，１種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気を付けてください。②に関しては以下に示す４つの課題の中から１つを選び，受講した年度の12月25日までにレポートを作成して提出すること（字数は1,000字以上2,000字程度4,000字以内）。もちろん未提出の場合，単位は与えられません。

レポート課題　スクーリング受講後１課題選択

課題1（木村　進担当）	「要求水準」の高低は，結果の評価（満足・不満足）に影響を与える。この点について，①実験結果を分析して，どのような関連性があるかについて考察すること，②自分の経験に照らして，どのような関連性があるかを考察すること。
課題2（宇田川一夫担当）	①知覚の明確さと共通性・一般性，②知覚の曖昧さと個別性という関係がある。そのことの具体的例をあげ，上記の知覚の特徴と関連づけて考察しなさい。
課題3（佐々木千鶴子担当）	心理学における図と地の現象的差異について，「ルビンの盃」などを例に述べよ。
課題4（渡部純夫担当）	イメージと意識，イメージと無意識についての関係を述べよ。

アドバイス

上記の課題から１つ選び下記期限内に提出してください。レポート用紙の「課題欄」に課題を，表紙の科目名記入欄の右側に担当教員名を必ず記入してください。

課題1 解説

(1)　結果の評価は，一般的には目標が達成されたかどうかで決まると考えられます。つまり，目標が達成されれば「満足」，達成されなければ「不満足」ということです。この場合は，目標（要求水準）の高さ（高低）は関係ありません。自分たちのデータおよび配布されたデータを分析して，このような傾向が成立しているかどうかをまず確かめてください。

(2)　データがすべて上記の傾向で支配されている場合には，(1)でおしまいですが，実際には，目標が達成されているのに「どちらでもない」あるいは「不満足，逆に達成されていないのに「満足」という場合があるかもしれません。そういう場合に，目標の高さ（高低）ということが関連しているかもしれませんので，結果の評価と目標との高さとの関連性を検討してみてください。

(3)　課題の②については，上記の(2)の場合について，自分の経験から材料を探して検討してみてください。

(4)　末尾に実験当日の結果データを貼り付けて提出してください。

課題2 解説

知覚の対象が，「明瞭」であればあるほど，その反応は「共通性・一般性」となるが，知覚の対象が，「不明瞭」になればなるほど，その反応は「私的・個別性」となる関係があります。

このような知覚の特徴を日常生活の中で具体的に見つけ，レポートしてください。なお，知覚の対象は，実験と同様に「ひとつの同じ対象の知覚変化」を具体的に見つけてください。別々の対象であれば日常生活の中に多くありますが，同じ対象の知覚の変化と反応の変化の関連性を見る「実験」の目的からはずれてしまいます。

どうしても見つからない場合は，実験とは別な材料を工夫して作り，周りの人に協力してもらい「実験」してください。その場合，実験目的の枠を超えない方法と結果分析が大切です。

課題3 解説

はじめに視覚を中心に説明をまとめてください。次に視覚以外の知覚について，自分自身の経験のなかで例をあげ，視覚の場合の図と地の関係を参考に考察し，記述してください。「視点を変えてみる」という表現は，視覚にのみ使用されることばではないということも参考にしてください。

課題4 解説

人間の深層をとらえていこうと考えたとき，イメージの問題は特に重要なものになってきます。フロイトもユングも夢の分析を手がかりにしながら人間の深層に迫ろうとしています。イメージの内容とパーソナリティとの関係が密であると考えたからです。フロイトは「心的現実」という言葉を使用しながら，この「心的現実」が「無意識」の領域に存在すると仮定し，探るための方法として「精神分析理論」を考え出しました。フロイトのいう「心的現実」こそイメージの世界といってよいのではないかと考えられます。

ここでは，イメージと意識ならびに無意識が，どのような関係を形成しているのかを学んでいただきたいと思います。意識からみたイメージと無意識から見たイメージとはどんなものなのかについて，理論にあたりまとめながら考えを掘り下げると同時に，イメージの活用についても考えていただきたいと思います。

イメージを定義することは至難の技だと思われます。いろいろな角度から接近を試み，イメージというものを自分のものにしていくための過程こそが重要だと考えます。イメージを考えることにより人間理解を深めていただきたいと思います。

参考図書

課題 3

仲谷洋平・藤本浩一編著　『美と造形の心理学』　北大路書房　1993年

課題4

水島恵一著 『イメージ・芸術療法』（人間性心理学大系3） 大日本図書，1985年
水島恵一著 『イメージ心理学』（人間性心理学大系9） 大日本図書，1988年
河合隼雄著 『ユング心理学入門』 培風館，1967年
河合隼雄著 『イメージの心理学』 青土社，1991年
河合隼雄著 『無意識の世界』 日本評論社，1997年
河合隼雄著 『無意識の構造』 中公新書，1977年